

4年制看護課程入学者の対人関係価値： 3年制看護学生，非看護系学生との比較

永田 博¹⁾，加藤久美子，笹野完二²⁾

要 約

1999年4年制看護課程に入学した看護学生の入学時の対人関係価値をKG-SIVによって現実の自己像とナースの理想像について調査し，これを同年に非看護課程に入学した学生と3年制看護課程に異なる時期（1990年，1993年，1996年）に入学した看護学生3コホートと比較した。その結果，4年制看護学生は非看護学生に比べ，「博愛」と「同調」を重視する程度が強く，「支持」と「承認」，「独立」を重視する程度が弱かった。また，彼女らの対人関係価値は3年制看護課程の学生のそれに類似していた。さらに，コホートの年次的移行のなかで看護学生の対人関係価値は「支持」と「独立」への動機づけが増大し，「博愛」への動機づけが減退する傾向を見せた。

キーワード：対人関係価値，看護学生，コホート

はじめに

看護学生の対人関係価値は，看護学校ないし医療短大に在学中のほぼ3年間に，「博愛」と「指導」の2価値領域を重視する程度が減退し，「支持」や「独立」を重視する程度は逆に増大する¹⁻³⁾。つまり，他者のためになることをしたり，不幸な人々に助力の手を差しのべるという「博愛」，他の人々の行動に責任をもち，リーダーになるという「指導」が学年進行とともに重視されなくなる一方で，他者から理解や親切，思いやりをもって扱われたいとする「支持」や，自分の思うように行動する権利を持ち，自分独自のやり方で行動したいとする「独立」が重視されてくる。

看護教育という公的な社会化過程で看護学生に生じる以上のような対人関係価値の変化とほとんど同方向の変化は，また別の次元においても緩やかに進行している。この次元とはコホートの年次的移行に係るものである。武内⁴⁾は1983年と1993年に女子大生の対人関係価値を調査し，その10年間に「支持」と「独立」への動機づけが増大し，「博愛」への動機づけが減退することを見いだした。全く同様のコホート間の相違は，1990年から1993年，1996年と異なる

年に医療短大へ入学した看護学生の入学時点での対人関係価値においても見いだされている⁵⁾。

本調査では，1999年に4年制の看護課程に1期生として入学した看護学生がどのような対人関係価値を示すのかを，2種類の観点から検討する。まず，1990年，1993年，1996年と異なる年に3年制看護課程へ入学した看護学生と比較する。次に，1999年に他学部へ入学した非看護系の学生と比較する。この2つの比較を通して，4年制看護課程へ入学した看護学生の対人関係価値が3年制課程の看護学生のコホートの年次的移行の延長線上に位置づけられるのか，あるいはこの延長線からのずれが認められるのかを検討する。さらに，もしずれが認められた場合，そのずれが非看護系学生の対人関係価値の特徴（「支持」と「承認」，「独立」の重要視と「同調」と「博愛」の非重要視⁶⁾）への傾斜を示すのかどうかを検討する。

方 法

被調査者

調査対象となったのは1999年に岡山大学医学部保健学科看護学専攻に入学した女子学生71名と同大に

岡山大学医学部保健学科看護学専攻

1) 岡山大学経済学部

2) 岡山大学名誉教授

同年入学した非看護系の女子学生76名であった。非看護系学生の所属する学部は、法学部11名、経済学部7名、文学部3名、工学部と農学部がそれぞれ12名、薬学部13名、理学部3名、環境理工学部2名、歯学部1名、不明8名であった。

手続き

看護系学生に対しては入学直後の4月、非看護系学生に対しては6月にKG-SIV (Kikuchi-Gordon Survey of Interpersonal Values)^{註1)}が実施された。

看護系学生にはまず現実自己、次に理想のナース像の順でKG-SIVによる2回の評定が求められた。現実自己評定においては、現在の自分がどのような対人関係価値を重視しているかが調査され、ほぼ1週間後に実施された理想像評定においては、現実自己評定とは異なり、各人で理想とするナース像を想定し、その立場から評定するよう教示された。いずれの評定においても、KG-SIVは講義時間中に実施された。被調査者には、1回目の現実自己評定の時に2回目の理想像評定が実施されることは予告されなかった。

これに対し、非看護系学生には上記の現実自己評定に対応する評定だけが講義時間中に求められた。

結 果

1. 看護系4コホート間の比較

記入不備等で無効となったデータを除いた結果、現実自己評定と理想像評定の2種類のデータが完全にそろった分析可能な被調査者数は65名(91.5%)となった。

Fig. 1に両評定の平均値を各価値領域ごとに示す。Fig. 1には加藤ら⁹⁾のデータ(1990年入学群, 以下90年入学群:70名;1993年入学群, 以下93年入学群:72名;1996年入学群, 以下96年入学群:63名)の結果を同時に示している。各尺度ごとに1変数に繰り返しのある4(コホート:90年入学群, 93年入学群, 96年入学群, 99年入学群)×2(評定:現実自己, 理想像)の分散分析を行ない、その後Tukey法($p < .05$)によって平均値の差を検定した。

90年入学群, 93年入学群, 96年入学群の3群間比較の結果については前回⁹⁾報告しているので、ここでは99年入学群と残り3群の比較および99年入学群の両評定間の比較についてのみ報告する。

1) 支持

コホートの効果 $\{F(3,266)=4.79, p < .01\}$ と評

定の効果 $\{F(1,266)=45.24, p < .001\}$ が有意であった。99年入学群の現実自己スコアは90年入学群のそれに比べ高かった。また、99年入学群の理想像スコアは現実自己スコアより低かった。

2) 同調

いずれの変数の主効果、および両変数間の交互作用に有意差は認められなかった。

3) 承認

主効果および交互作用のいずれにも有意差は認められなかった。

4) 独立

コホートの効果 $\{F(3,266)=3.37, p < .05\}$ と評定の効果 $\{F(1,266)=73.46, p < .001\}$ が有意であった。99年入学群の現実自己スコアは90年入学群のそれに比べ高かった。また、99年入学群の理想像スコアは現実自己スコアより低かった。

5) 博愛

コホートの効果 $\{F(3,266)=8.14, p < .001\}$ と評定の効果 $\{F(1,266)=37.25, p < .001\}$ が有意であった。また、両要因間の交互作用も有意であった $\{F(3,266)=6.45, p < .001\}$ 。99年入学群の現実自己スコアは90年入学群のそれより低かった。また、99年入学群の理想像スコアは同群の現実自己スコアに比べても、96年入学群の理想像スコアに比べても高かった。

6) 指導

評定の効果だけが有意であり $\{F(1,266)=61.26, p < .001\}$ 、99年入学群においては現実自己スコアに比べ理想像スコアが高かった。

2. 看護系学生群と非看護系学生群の比較

記入不備等で無効となったデータを除いた結果、非看護系学生の有効データ数は72名(94.7%)となった。看護系学生の現実自己評定については有効データがさらに2名分あったので、看護系学生については合計67名のデータで分析した。Table 1に各価値領域の平均評定値を示す。2群間の比較は t 検定によって行ったが、2群の分散が等質でない場合はWelchの法に従った。

分析の結果、「支持」 $\{t(137)=2.84, p < .01\}$ と「承認」 $\{t(132)=4.95, p < .001\}$ 、「独立」 $\{t(137)=3.76, p < .001\}$ の3価値領域を重視する程度は非看護系学生群の方が強かったが、「同調」 $\{t(121)=3.37, p < .01\}$ と「博愛」 $\{t(126)=7.45, p < .001\}$ の2価値領域を重視する程度は看護系学生群の方が強かった。

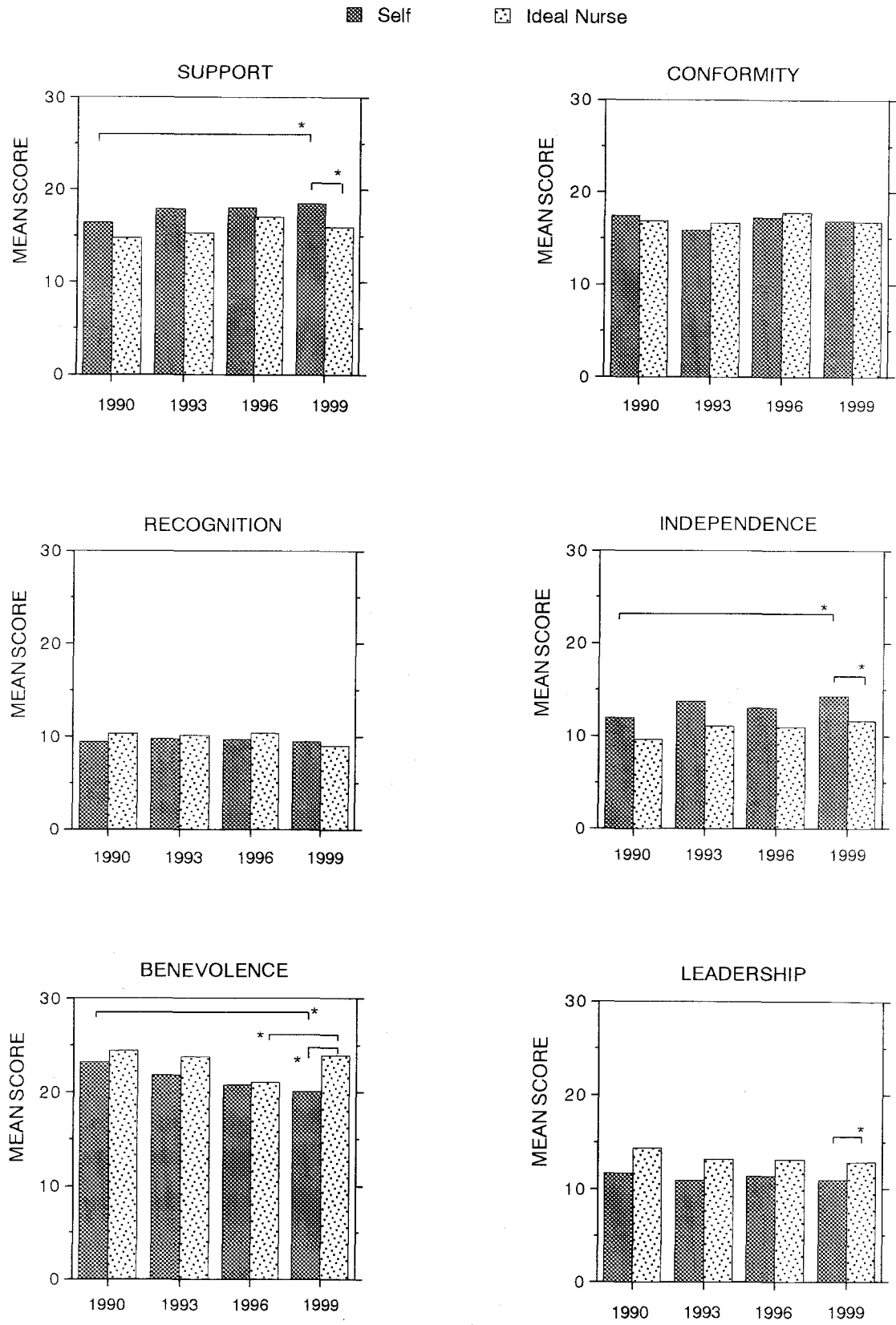


Fig. 1 Mean scores for each interpersonal value. * $p < .05$

Table 1 Means and SDs for each interpersonal value

Majoring in nursing		Support	Conformity	Recognition	Independence	Benevolence	Leadership
Yes (n=67)	Mean	18.51	16.70	9.39	14.46	20.03	10.91
	SD	3.74	3.19	3.22	4.32	3.36	3.86
No (n=72)	Mean	20.56	14.29	12.54	17.47	14.71	10.43
	SD	4.63	5.03	4.21	4.99	4.90	3.56

n: Number of cases. ** $p < .01$, *** $p < .001$

考 察

4年制課程の看護学生の対人関係価値は、非看護系学生に比較して「支持」と「承認」、「独立」で低く、「同調」と「博愛」で高かった。この傾向は10年前の医療短大生と法経学生で得られた結果⁶⁾と全く同じである。したがって、看護学生は3年制課程であれ4年制課程であれ等しく「博愛」と「同調」の価値を重視し、「支持」と「承認」、「独立」の価値を重要視しない傾向があると言ってよい。この点で、両者は同質の対人関係価値を共有しており、いずれも、高博愛と高同調、低独立、低指導で特徴づけられる「施設によるサービス (institutional service)⁷⁾」に属する職種の対人関係価値を示している。以上の点から、本調査の対象となった4年制課程の看護学生が非看護系学生の対人関係価値に類似しているとは言うことはできない。

「博愛」と「同調」は、他者へのはたらきかけや他者の基準を尊重するなどいずれも自己から他者へ向かう心理的構え、あるいは「他者中心的な方向づけ⁸⁾」を含んでいる点で「他者指向的」な対人関係のあり方に係っている。これとは逆に、「支持」と「承認」は他者を自己に向かわせる点で自己中心的な心理的構えを含んでおり、「自己指向的」な対人関係のあり方を伴う。また、「独立」は他者を意識し、想定する度合いが低い。各対人関係価値に含まれる自己関係をこのように特徴づければ、看護系学生の対人関係価値のあり方は、3年制課程であるか4年制課程であるかは無関係に、基本的には「他者指向的」であり、多分に自己犠牲的、理想主義的であると言ってよい。

しかし、看護学生に見られるこのような「他者指向的」な対人関係価値のあり方が、コホートの年次の移行と共に徐々に減退してきている。Fig. 1からも明らかなおお、4年制課程の看護学生の対人関係価値は、3年制課程の看護学生のコホート間で得られている対人関係価値の年次の移行の延長線上に

ある。本調査の結果、彼女らの対人関係価値が、9年前の看護学生に比べて「支持」と「独立」への動機づけが強まり、「博愛」への動機づけが減退していることが明らかになった。^{注2)}このコホート間の違い(変化)は看護系学生に特徴的な現象ではなく、武内⁴⁾の研究結果に見られるとおお、広範な学生群に進行している時代的、現代的现象であるように思われる。しかし、このような時代的潮流の影響下にありながらも、「他者指向的」な対人関係価値のあり方を典型的な形で保ち続けている看護学生の存在は特記されるべきであり、その対人関係価値のあり方は、看護学生が看護の対象を理解しようとして援助関係を作り上げ、維持していくうえで非常に重要な役割を果たしていくと考えられる。

注1) KG-SIVの詳細については文献9-12、またその原版であるSIV (Survey of Interpersonal Values)については文献7と13を参照されたい。

注2) われわれは前回⁵⁾、96年の理想のナース像に示された対人関係価値が90年と93年と異なり、「支持」を重視する傾向が増大し、「博愛」を重視する傾向が減退したことから、看護学生が理想的ナース像に対して設定した要求水準が低くなってきていると指摘した。今回の4年制課程の看護学生ではこの傾向が消失し、「支持」と「博愛」からみた理想のナース像の水準は90年と93年に3年制課程の看護学生で得られた水準まで回復している。このことは、4年制課程の1期生が現実には「支持」の重視と「博愛」の非重視という時代的傾向に沿いながらも、理想としては高い志を掲げているということを示すのかもしれない。

文 献

- 1) 永田博, 小川節子, 近藤益子, 大羽葵: 看護学生における対人関係価値の学年変化—自己像およびナースの理想像の比較による検討. 看護展望, 16: 1168-1174, 1991.
- 2) 永田博, 武内信子, 小川節子, 近藤益子, 大羽葵: 看護学生における対人関係価値の学年変化—看護系高校生と非看護系大学生による検討. 看護展望, 17: 1420-1428, 1992.

- 3) 永田博, 近藤益子, 小川節子: 看護学生における対人関係価値の学年変化—縦断的研究法による内的妥当性の検討. 看護研究, 27: 41-48, 1994.
- 4) 武内信子: 女子大生及びその両親にみられる価値観とその時代変化—対人関係価値尺度・個人的価値尺度を通して. ノートルダム清心女子大学紀要, 19: 129-133, 1995.
- 5) 加藤久美子, 近藤益子, 多田政子, 永田博: 看護学生における対人関係価値のコホートによる相違. 岡大医短紀要, 7: 129-134, 1996.
- 6) 永田博, 近藤益子, 小川節子, 大羽葵: 看護学生における対人関係価値の学年変化とその教育的意義. 看護教育, 31: 484-490, 1990.
- 7) Gordon, L. V.: The measurement of interpersonal values. Science Research Associates: Chicago, 1975.
- 8) Gordon, L. V. and Mensh, I. V.: Values of medical school students at different levels of training. J. Educ. Psychol., 53: 48-51, 1962.
- 9) 菊池章夫: 対人関係価値の測定(1). 福島大学学芸学部論集, 14(3): 8-14, 1963.
- 10) 菊池章夫: 日本人の対人関係観. 年報社会心理学, 5: 161-177, 1964.
- 11) Kikuchi, A. and Gordon, L. V.: Evaluation and cross-cultural application of a Japanese form of Survey of Interpersonal Values. J. Soc. Psychol., 69: 185-195, 1966.
- 12) ゴードン, L. V., 菊池章夫: 価値の比較社会心理学. 川島書店, 1981.
- 13) Gordon, L. V.: Survey of interpersonal values. Science Research Associates: Chicago, 1960.

(Original article)

Interpersonal values in 4-year course nursing students : Comparisons with 3-year course nursing students and students not majoring in nursing science

Hiroshi NAGATA¹⁾, Kumiko KATO and Kanji SASANO²⁾

Abstract

This survey studied the interpersonal values held by a cohort of students admitted to a four-year course of nursing program in 1999 to determine whether they had the same interpersonal values as the third-year course nursing students. The KG-SIV (Kikuchi-Gordon Survey of Interpersonal Values) was administered twice at the beginning of the program. The subjects described 'self' for the first testing, while they described 'ideal nurse' for the second testing. Their scores on the self and the ideal nurse were compared with those obtained for three cohorts of nursing students who started the three-year course of nursing program in 1990, 1993 and 1996, respectively. Their scores on self were also compared with the scores obtained for four-year course students not majoring in nursing. Analyses showed that compared to the students not majoring in nursing the four-year course nursing students rated the values of Benevolence and Conformity as more important, while they rated the values of Support, Recognition and Independence as less important. Their scores were similar to the scores given by the three-year course nursing students. Also, the values of Support and Independence increased while those of Benevolence decreased across the four cohorts of nursing students. It was concluded that nursing students hold distinctive interpersonal values as compared to non-nurses irrespective of their particular nursing program. Such values are ones that are beneficial to the nursing profession.

Key words : interpersonal values, nursing students, cohorts

Faculty of Health Sciences, Okayama University Medical School

1) Faculty of Economics, Okayama University

2) Emeritus Professor, Okayama University